



福島 67 便(視察研修 4 号)報告

(公開用)

1. 実 施 日

平成 28 年 10 月 22 日 (土) ~23 日 (日)

2. 目 的

- (1) 東日本大震災と原発事故の『風化』をさせない
- (2) 地元の現状、今を『正しく知る・伝える』
- (3) 自分達にできることを『考える』

3. 主 催

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

4. 協 力

浪江町

社会福祉法人 浪江町社会福祉協議会

大堀相馬焼協同組合 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房

ヘルシーパルあだたら

5. 視察研修実施資料

福島 67 便 (視察研修 4 号) <浪江町様視察研修>資料 20161022-23v1.0 (別紙)
(浪江町の紹介、陶芸の杜紹介、避難状況、発災時の状況、他)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

目次

1. はじめに.....	3
2. 視察研修場所・時間等.....	5
3. 参加者.....	5
4. 視察記録(写真一部).....	6
5. 視察研修記録.....	11
(補足).....	47
1. 視察研修便参加者アンケート集計 < ()内は回収・回答数です。 >.....	47
2. 会計.....	49



1. はじめに

浪江町長 馬場 有 様
副町長 宮口 勝美 様
生活支援課 課長 清水 中 様
係長 中野 夕華子 様
副主査 今野 あゆみ 様
浪江社会福祉協議会 常務 杉本 俊郎 様

馬場町長には浪江町様の視察研修をさせていただきましたこと、感謝申し上げます。また、事前ご挨拶の際にも面談させていただき、ありがとうございました。

宮口副町長、清水課長、中野係長には、事前の調整ありがとうございました。そして宮口副町長、中野係長、杉本常務にはご案内もいただき、ありがとうございました。

今野さんとはその後に仮設商店でお目に掛かりました。今後もよろしくお願ひします。

大堀相馬焼協同組合 理事長 小野田 利治 様
事務局 五藤 かおり 様

小野田理事長、五藤様には、当日のお話と、大堀相馬焼の絵付けのご指導をいただきありがとうございました。後日、焼き上がった品物をお送りいただき、一同喜んでおります。

私達が現地に赴く主旨は、

- ・現地に行って・自分の目で見て・自分の耳で聞いて・自分で体感すること
- ・そして、正しく知り、正しく伝えること

それが大事だと考えています。現地に赴いて初めて知ることは多いです。

今回の訪問はとても貴重なものと思います。

参加者一同大切にさせていただきたいと思います。

浪江町の皆様におかれましては、まだまだ困難が多いと思います。

日々ご多用な中どうぞ健康ご留意いただき、町の皆様が一丸となり、これからを築いていかれますこと祈願いたします。

ご協力いただきましたこと、感謝いたします。

大変ありがとうございました。



最後に、参加者の研修記録を項番5に取りまとめました。

- (1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)
- (2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)
- (3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)
- (4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について(事実・感じたこと)
- (5) 参加して(個人全体所感、神奈川県内に向けて)
- (6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

内容は、それぞれの個人の私見、感じたことです。手を加えていません。それぞれの感じ方として受け取っていただければと思います。

また、繰り返しになりますが、皆様の復興への強い想いを全員感じました、町が一体となり、これからの築いていかれることと思います。

変わらぬ現実が続いていますが

お体に十分にご自愛いただき、明日へ進んでいかれまこと、祈願いたします。

本、視察研修の経験は、当会の活動報告等のなかでも紹介していきたいと思えます(参加者名は未記載とします)。

また、お話は、ぜひ神奈川にもお越しいただき、お聞かせいただきたいと強く感じました。機会、場を設けることができましたら、少人数かも知れませんが、そのときはどうかよろしくをお願いします。

浪江町様、皆様、ご多用の中、誠にありがとうございました。
御礼申し上げます。

かながわ「福島応援」プロジェクト
代表 渡辺孝彦/広報 東尚子
参加者一同



2. 視察研修場所・時間等

(1) 平成28年10月22日(土)

- 11:30 浪江町役場本庁舎
- 11:30 仮診療所/浪江消防署～仮商業施設
- 12:00 浪江町役場本庁舎～仮設焼却施設
 請戸地区(請戸港・請戸小学校)～大平山霊園・コミュニティ広場・棚塩地区
 区～貴布祢・浪江東中学校周辺・防災集団移転分譲地・小中学校・認定保育園
 園・JIN・雇用促進住宅・高瀬地区
- 13:30 浪江駅～新町通り～ホテルなみえ
- 14:00 浪江町役場本庁舎～スポーツセンター～立野のコスモス畑
- 15:00 津島スクリーニング場
- 16:00 浪江町役場二本松事務所(車中、復興計画ご説明)
- 17:00 ヘルシーパルあだたら(宿泊・懇親会)

(2) 平成28年10月23日(日)

- 09:00 県営復興公営住宅(建設中)／石倉団地・集合住宅
 県営復興公営住宅(建設中)／根柄山団地・戸建住宅
- 10:00 陶芸の杜おおぼり二本松工房／大堀相馬焼協同組合
- 11:00 相馬焼見学(同建物内)
- 11:20 道の駅安達「智恵子の里」
- 12:25 安達太良SA(以降、帰浜)

3. 参加者

(1) 参加者数

	合計	女性	男性
参加者	20名	9名	11名
宿泊者	20名	9名	11名

(2) 参加者年代

	30代	40代	50代	60代	70台
年代	1名	3名	10名	5名	1名

(3) 参加者地区

相模原市	鎌倉市	茅ヶ崎市	秦野市	葉山町
3名	1名	1名	1名	1名
横浜市青葉区	横浜市神奈川区	横浜市金沢区	横浜市港南区	横浜市港北区
2名	2名	1名	1名	3名
横浜市栄区	横浜市都筑区	横浜市戸塚区	埼玉県	
1名	1名	1名	1名	

4. 視察記録 (写真一部)



浪江町役場



浪江町仮設焼却炉



請戸港



請戸港



請戸小学校



大平山共同墓地

《続き》



大平山から



慰霊碑



線路 (2017. 3. 31 に再開)



浪江駅



歌碑(「高原の駅よさようなら」の誕生の駅)

《続き》



浪江町内



浪江町内



立野のコスモス



立野のコスモスを植えた上野さん(帽子の方)



ここから制限区域



津島スクリーニング場

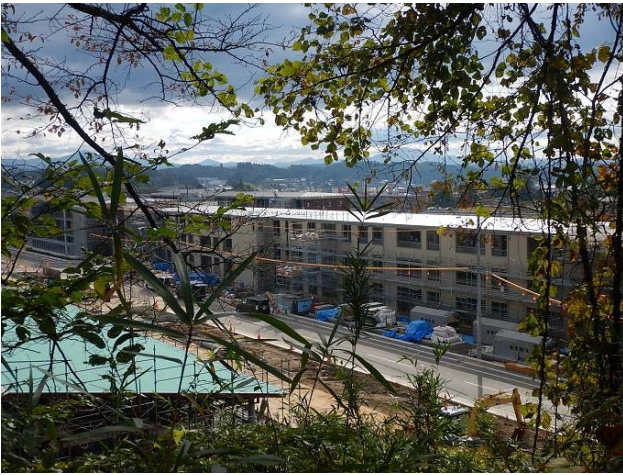
《続き》



浪江町二本松事務所



二本松市 岳温泉



石倉団地・集合住宅



根柄山団地・戸建住宅



陶芸の杜おおほり二本松工房



相馬焼の絵付け体験の様子

《続き》



絵付け作品



絵付け作品



絵付け作品



絵付け作品



絵付け作品



絵付け作品



絵付け作品



絵付け作品



絵付け作品



絵付け作品



絵付け作品



絵付け作品



5. 視察研修記録

参加者による研修レポートをまとめました。レポートの項目は次のとおりです。

- (1) 浪江町内視察して（事実・感じたこと）
- (2) なみえ復興レポートをお聞きして（事実・感じたこと）
- (3) 復興公営住宅（石倉団地、根柄山団地）建設場所を視察して（事実・感じたこと）
- (4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について（事実・感じたこと）
- (5) 参加して（個人全体所感、神奈川県内に向けて）
- (6) 浪江町様へ（町長、町役場、町民の皆様へ）

※1 参加の記録の文章は原則として原文のままとし、明らかな誤字脱字の修正を除き変更を加えていません。記録上、不適切な内容・表現があるかもしれませんが、それぞれの参加が、実際に感じたこととなります。ご理解いただけましたら幸いです。

※2 記録の参加者氏名は無記載とさせていただきます。
(内部記録としては、実名版を保持しています)

【参加者 No.1】**(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)**

地震による被害が比較的軽かったという浪江町役場とは対照的に、津波の被害が大きかった請戸地区や、片付けが手つかずのままの浪江駅～新町通りを見ると、東日本大震災から5年半過ぎてもなかなか復旧が進んでいない(それでも少しずつは進んでいる)ことが伺えた。大熊町や双葉町と比べれば、がれきの片付けや民家の手入れももう少し進んでいるのではないかと想像していたのだが、全町避難という状況の難しさをあらためて感じた。

請戸小学校の生徒が大平山まで走って逃げて助かったというお話を伺ったが、実際に大平山から海辺を見渡すと、どれだけ不安だったろうかと思う。大平山に共同墓地ができるということだが、請戸地区にも、町民の方や町外から訪れる人が祈りを捧げられる慰霊碑が整備されるといいと思う。

商業施設が再開に前向きでないことや、大手企業が事業再開を断念したという話には厳しい現実を感じるが、まずは仮設商店街で実績ができて、少しずつでもにぎわいが戻ることを願っている。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

請戸地区が津波で壊滅状態になったのを実際に見たことがない(実感がわからない)町民の方も多いというのは意外な気がしたが、たしかに、原発事故ですぐに逃げろと言われて、そのまま何年も帰れず町の様子を知らないまま過ごされてきたということに他ならない。原発事故で避難を強いられることの異常さを表していると思う。

浪江町では避難区域の再編時に行政区単位で区分したということだが、ご近所同士の無用なあつれきが生まれずに行政区のつながりが保たれることが期待できるのではないだろうか。

除染は計画よりも2年遅れている、また民家の解体が進んでいないので廃棄物減容化施設の継続を要望しているということだが、まだ不要品の整理や解体の申請が済んでいない町民の方もいらっしゃると思うので、国には避難指示解除後も柔軟に対応してほしい。

仮設商店街でなかなか働き手が見つからないとのことだが、町外に住んでいて浪江町まで通勤しようという人が少ないというお話に、なるほどそうなのかと思った。町に戻られる予定のシニア世代の方々が短時間でも手伝うなど、何か解決策ができるといいと思う。

初期の避難が広域だったため町民の現在の避難先として福島市、いわき市、南相馬市、郡山市、二本松市にそれぞれ1,000人以上いらっしゃるということで、特に町内で小中学校を再開するのか避難先で教育を受けさせて切磋琢磨させるのか、お子さんにとって最適な選択は何かという悩みは、町にとって本当に難しいことだと思う。

**(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地) 建設場所を視察して(事実・感じたこと)**

石倉団地の規模の大きさには驚いたが、買い物など住むには便利そうな場所のようなので、仮設住宅や借り上げ住宅から移られて少し快適な暮らしができるようになると思う。ただ、帰還困難区域を除いて避難指示解除も見えてきている中で、入居を予定していたがまた迷われる方もいるのではないかと感じた。

戸建てタイプの根柄山団地も、眺めが良く素敵なところだと思った。たまたま入居者の方と少しお話ができたり、ご家族連れが家を見に来られていたり、明るさが感じられた。

ご案内いただいた職員のお2人が、玄関周りの構造など改善できそうな点などをしっかりチェックされていたのが印象に残った。鍵を渡して「よかったですね」で終わりではないのだと感じられた。集会所も活用されるように手だてができると思う。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について(事実・感じたこと)

伝統を絶やさないように避難先で事業を再開されている窯元もあるとのこと、さまざまな違いで苦労されていると思うが、技術が残っていくよう願っている。

馬を描くのは絵付け専門の方がいらっしゃるぐらい熟練が必要だと思うが、自分でも挑戦してみてとても難しかった。焼き上がりで少しマシになっているといいのだが。

(5) 参加して(個人全体所感、神奈川に向けて)

国道6号線や浪江町役場に近しい地区では、仮設商店街の開業など明るいきざしもあり、人の行き来も見られる。立野地区の水田に咲いたコスモスには心を動かされた。一方で請戸地区や津島地区など、まだ復旧・復興に向けた目処が立っていないところもある。帰りたくてもまだ帰れない方も大勢、広域に避難されているため、町としての業務、課題も山積みであろうことは想像できる。せめて受入先の地域、自治体で支えられることは支えていきたい。

(6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

避難指示解除に向けた動きもありご多忙な中、2日間にわたりご案内いただき本当にありがとうございました。それぞれのお住まいも、津波での被害、帰還困難区域内など、大きな被害を受けている中で、町民の目線を忘れずに行政にできることをしっかりと進められているご様子に頭が下がります。

コスモス街道のお話を聞いたときに、来年、再来年には川沿いのコスモスが復活するといいなと思いました。町民の方のお困りごとも含め、私たちにできることがあればお手伝いに伺いたいと思います。

【参加者 No.2】**(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)**

・市街地は除染、除草など清掃が進み綺麗な町並みを取り戻そうとしているが、住民が戻り、手が届くところ、届かないところが発生し、まだらな町並みにならないか少し気になりま



した。

- ・建設が進んでいる堤防の高さは7.2mになるとお聞きしましたが、陸地から海は見渡せなく、見えないことへの不安を感じました。
- ・大平山霊園から見える請戸小学校は随分遠く、子供たちはよく全員避難できたものだと日頃からの訓練やその心構えに頭が下がる重いです。
- ・篤志家の方が栽培されているコスモス畑とても綺麗で、この町の花が将来いたるところで見かけられるように戻ってほしい。
- ・市街地から津山に向かう道程は遠く、広大で帰還困難区域の広大さに唖然とするばかりでした。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

- ・避難指示が届かない中町の決断で先ず津島に避難、そこからいく手にか分かれての避難の連続だったことをお聞きし、当時どんなに大変だったかを知ることができました。
- ・水稻は平成27年より販売が開始されているが売値が叩かれていることはさぞお辛いことでしょう。早く美味しさの通りの金額に戻ってほしい。
- ・出納から花卉栽培に切り替えられたトルコギキョウが人気で、太田市場でも取り扱われていることは大変喜ばしいと思った。
- ・平成27年9月の町民調査では戻りたい方が17.8%と判断がつかない方他が圧倒的に多いなかでの復興計画の策定、実施はとても大変な事業であることを知った。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

- ・どちらも南向きで日当たりがよさそうですね。町民の方が少しでも快適な暮らしに戻られ、笑顔が増えればいいと思います。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について(事実・感じたこと)

- ・陶芸の先生はユーモラスで、あっという間でしたが楽しい作業時間を過ごすことができました。
- ・展示販売会場は思ったより多くの作品が飾られており、種類や彩りも豊富で大濠相馬焼のファンになってしまった。

(5) 参加して(個人全体所感、神奈川に向けて)

- ・来春予定されている避難指示解除に向けてインフラ面の整備は着実に進んでいるように見受けられました。
- ・帰還し生活をしていくには環境面に加えて、仕事ができることや子供たちの就学面の整備も必要であることをお聞きし、全体な最適さを取り戻すにはまだまだ乗り越えなければいけない困難があると感じました。
- ・視察やお話を伺い、避難されている方の帰還や居住について自分が何もすることができないこと。
- ・神奈川に避難されている方々が故郷を思い、町や避難者同士の繋がりを必要とされる限りそのお手伝いを続けていきたい。



(6) 浪江町様へ（町長、町役場、町民の皆様へ）

- ・復興に向けて大変お忙しい中、視察ご案内や復興に向けての取り組みをご説明いただきありがとうございます。ご説明にあたってくださったお三人の方が日々ご苦勞の連続だと思っておりますが、とても素敵な笑顔でユーモアも交えられ人間味溢れる姿は町民の方々の大きな励みになると思います。
- ・町の将来のためには若者の力が必要、その通りですね。
- ・自分の目で見たこと、お聞きしたことを踏まえて避難されている方々に自分が何かお役に立つことはできないかをよく考えて行動していきたいと思っています。
- ・今回は仮設商店街の開店に間に合いませんでしたが、また訪問させていただき本場の浪江焼きそばを食べてみたいです。
浪江町に賑わいが戻り、近隣の町にも波及し、双葉群全体が元気を取り戻す日が来ることを願って止みません。

【参加者 No.3】

(1) 浪江町内視察して（事実・感じたこと）

とても、東日本大震災から5年半経っているとは思えない状況でした。

F1の煙突を遠望できる沿岸部にある減容化処理施設に来たとき、ようやく住宅の基礎が掘り起こされている状態で、表面の残骸が処理をされ、作業がスタートしたばかりという印象でした。周囲のかさ上げや堤防の造成も、いわきや陸前高田から3年以上遅れている感じでした。

減容化施設は、解体の計画があるが町からはまだ稼働させたいと言う要望が出されているそうです。これも気仙沼の3年以上遅れと感じました。

近くの請戸小学校の児童は、障がいのある仲間もいることから、校長先生が1年生からグラウンドを走らせていたそうで、少し内陸の大平山からさらに内陸に徒歩で避難をし、トラックに拾ってもらって、1人の犠牲者もなく避難できたそうです。海が見える、見えないの差でしょうか、折しも大川小学校の地裁判決が出されたところで、子どもの周囲にいるおとなたちの危機意識の差が結果となって現れたようです。

副町長さんのお話では、沿岸からまっすぐな道を付けたいと思っているが、埋蔵文化財がありなかなか進まないそうです。

帰還を前に、浪江東中学校を認定子ども園から中学校までを一つの敷地に集めた施設を作る計画とのこと、人々が安心して戻ってこられる一つのアイデアだと思いました。

コスモス畑での農家のお二人の笑顔の中から、故郷の再生に向けた熱意を感じることができました。



町役場隣の、商業施設が 27 日に営業開始ですが、紆余曲折があったそうです。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして (事実・感じたこと)

副町長さんから、直接お話をうかがうことができ、レポートの行間にたくさんの課題が含まれていることがわかりました。職員も被災者で、役場の中でも、津波と帰還困難とのわだかまり「帰れる家があるだけ良いだろ！」が、印象に残っています。

これに似た話は、いわき市内でも聞きました。浪江町の行政担当者の間にもこんな不条理が渦巻いていたのですね。やるせなさを強く感じました。

避難の際、ただ逃げろと言われ、被爆しながら渋滞を待っていたお話や、町の中心の役場が 4 回も移動しなくてはならなかったこと、帰還困難区域の道の駅津島のモニタリングポストは 0.5、近くのポストは 2.2、駐車場の地面に置いた線量計は、あつという間に 6 を越えました。帰還困難区域の広大さ、内陸部、山間部が多く平地を除染しても、ダムの件も含めて、流れ下ることがないのか、不安に思っているのは私だけでないはずです。

「内外教育」に、浪江小学校、津島小学校の「ふるさとなみえ科」のとりくみが、時事通信社の教育奨励賞の努力賞を受賞した記事が載っていました。何とか子どもたちに、ふるさと浪江を忘れないでもらいたい、困難に負けない子どもに育てて欲しいというおとなたちの願いが伝わってきました。

(3) 復興公営住宅 (石倉団地、根柄山団地) 建設場所を視察して (事実・感じたこと)

私の知る限りでも、いわきでは復興支援住宅には、かなり前から入居が始まっていました。ここでも、かなりの遅れを感じています。仮設のプレハブの薄い壁でも隣の生活音が問題になっていましたが、集合住宅では(私も団地住まいでしたので)上下の音が加わり、大丈夫なのかと思いました。暑さ寒さに対しては、かなりの改善はあるでしょうが、いつまでここに住めるのか、という不安はぬぐい去ることはできないでしょう。石倉ではそう感じました。

根柄山では、たまたま入居者の方の許可をいただき、内部も覗かせていただくことができました。副町長さんたちとも話していましたが、雪の対策、一軒に一本アンテナが建っているなど、首をかしげてしまうことも散見され、当初から懸念されていたことですが、用地の確保にはじまり、まだまだ多くの課題が山積し、特に工期の遅れ、入居者がいつまで、次はどこへ…等の見通しもたっていないようです。5 年住んだところから、引っ越した先でのコミュニケーションづくりも懸念され、気苦労が絶えそうもありません。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について (事実・感じたこと)

原料の土、窯の場所、製作拠点、販売拠点、販路など、お酒などもそうですが、間借り状態がいつまで続くのか？ また、その生業を続けて行かれるのかの不安、後継者は？など課題が山積し、他のすべての産業の復興への一つの指標となるものであると感じました。

これからも応援していきたいと考えます。



(5) 参加して(個人全体所感、神奈川に向けて)

震災直後のボランティアで、石巻の小学校の先生のお話「忘れないで欲しい、語り伝え広めて欲しい」を心に刻んでいます。

今回の研修に参加させていただいて、やはり、実際に行って、見て、聞いてみないとわからないと言うことを再確認しました。

自分ではどうしようもない「不条理」な状態です。お手伝いを引き続きさせていただきたいと思っています。遅くなってしまいましたが、気持ちの整理ができず、いつもはすぐに更新するブログも、手が止まったままです。ですが、しっかりまとめて、私の勤め先、ボーイスカウ

トのリーダーや子どもたちに、現状を伝え広めていこうと思っています。

毎回のボランティアがそうですが、現地の人たちから元気をいただいて帰ってくることができました。今回研修便をご準備いただいたなべさんをはじめとする kfop の皆様に感謝しています。また、受け入れていただいた浪江町のみなさんへ感謝すると共に、一日も早い復興をお祈りします。

(6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

この度は、研修便を受け入れていただきありがとうございました。神奈川では、想像はしていても、それを遙かに超えるご苦勞の数々、そのような中でも、非難されている皆さんをまとめようと奮闘されている、町役場の皆さんに頭の下がる思いです。

微力ですが、引き続き応援させていただこうと決意を新たにいたしました。

私は、中学校教諭ですが、同僚や子どもたちに語り広めていくつもりですし、これからボランティアのニーズが増えてきそうな気配を感じています。仲間を誘って、お手伝いをさせていただければと思っています。

浪江町の皆様の一刻も早い復興と、ご多幸をお祈り申し上げます。

【参加者 No.4】

(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)

町役場の方の案内で、帰還困難区域も含めて各地区を視察した。無人の家は、草が生えたままで、住居周辺の草刈りをどうするかが将来の課題である。町役場の方のお話しでは、野菜を育てている農家は、花卉栽培に切り替えているということである。農業、漁業の再開、帰還する住民の食の自給はどうするのか、私には不安が残った。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

農業・漁業の再生、復興住宅の建設、学校の再開等、町役場の方からお話しを伺った。やはり鍵となるのは、住民の帰還率であり、将来の帰還困難解除も含めて、極めて不透明な将来と感じた。既存の町並みを生かしての再生では、帰還しない住民の空き家も多くなること



が予想され、商店街の再生や防犯などに課題があると思う。

住民、一時滞在者(旅行者)等を惹きつけるような町の目玉が必要ではないかと思う。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

二本松に建設中及び完成したばかり公営住宅を視察した。浪江町外に住宅を造らざるを得ないところに、町の現状と苦悩を感じた。住民と接する行政も苦労するだろう。

町外の住宅での生活に慣れた浪江町民が、将来帰還するという意欲を減じてしまわないか、心配である。帰還した住民と、町外の住民との頻繁な交流が必要ではないかと思う。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について(事実・感じたこと)

陶芸体験をした。このような素晴らしい体験を、二本松という浪江ではない町で受けたことは残念である。本来の浪江町内で体験したいと思う。もともと浪江にあった、すべての窯元が浪江に帰還することは難しいかもしれないが、伝統を伝えることは文化的に意義のあることなので、担当者には頑張っていたいただきたいと思う。

(5) 参加して(個人全体所感、神奈川に向けて)

今回は、町役場の方にいろいろと貴重なお話を伺ったが、住民の帰還や町の再建は将来のことでもあり、こちらも話を聞いて想像するしかなく、所感を書くのが難しい。町の未来については、元の住民の帰還率によるところが大きい。避難した地で新生活を始めた住民の方々が帰還するかどうかは、ただ懐かしい、あるいは先祖伝来の土地であるという理由だけでは強い動機になるとは思えない。やはり、将来性を感じさせるような取り組みも必要ではないかと思った。

今回の研修は、比較的長距離を行くためスケジュール的には難しかったと思うが、双葉町の研修のような住民との交流の機会を持って、住民の方々の御意見も複数聞きたかった。

神奈川に住んでいる方にも6号線を通って無人の町を眺めて唖然とした人も多いと思うが、これから再建する町の姿と住民・役場の方々の努力にも関心を持って見守り続け、浪江町から何らかの提案があったときは受け入れを検討することがあっても良いと思う。

(6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

これからも大変な時期が続くと思いますが、町が再建するよう心から祈っております。

今回の視察でお世話になりました町役場の宮口副町長と中野係長、および社協の杉本常務には大変感謝しています。

【参加者 No.5】

(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)

今回も町役場の方のお話がとても貴重な研修をさせていただきました。

バリケードだらけの街中に入る、請戸の港の話は避難の方より聞くのみで、その話は活気のある浜の姿しかなく、自分もそうではない姿とはわかっている、想像することはむずか



しいことでした。何も無い。消えた生活、6年の間にどんなに、復興の取り組みまでの時間は、私たちには軽々しく何を言っているのかわからないものでした。

多分、宮口さん、中野さんのパワフルなお人柄にて、私達は町の、町民側のお気持ちにふれることができた研修となったものと感謝します。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

津島の車の行列の写真を何度か見ました。

本当に町民の方が「高い方へ(線量の)高い方へといかさてらんだよなあ」と「浜の方へいつもなら吹いている風なのに、あの日は北西だったのよねー」。まさしく帰還困難地区の帯が改めてわかりました。復興計画、まちづくり計画、着々と役場周辺の整備、“建物はできても働く人がいないんだよね”と、そして戻らない町民の意思表示が半数もある浪江町の復興。

でも、始めなくては、何も無い。タブレットでつながっている帰還困難地区の方は、大切にタブレットを抱えている。

この時期に視察できたことは貴重でした。役場が戻り、学校の再会。職員の入れ替わり、町を知らない“自分のスキルアップの為に”と応募の若い職員、問題だらけの町に正面から向き合う。役場の復興レポート、大切にします。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

石倉団地よりの安達太良山を仰ぐ。

何と大きな団地でしょう。高層ではないにしろ、そびえ建つ姿にどうぞ、外へ出てきて下さいと願わずにいられなくなってしまいました。

診療所もデイサービスもできるとのことで、皆さんの寄り処となり、町民同士の輪が、どうぞできますように。

買い物もベイシアまでの平らな道で安心しました。現在の山の上の仮設ではさぞかしの御不便があったと。

根柄山団地も、きれいに整備され、新しい良い輪ができますように。

物置もありましたが、やはり仮設より少しは広くなったけれど、これが終の処と、皆さんの覚悟もいかばかりかと思えます。

道に出ると、矢印の川俣の標識が、ささりました。この道を行けば、、、近く感じられるのか、はるか遠くと思われるのか。

冬が来る前の視察でした。どこへ行っても冬景色は気持ちが軽やかになるものではないと思いますが...

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について (事実・感じたこと)

絵付けは何故か遠慮させて頂きました。

組合のOさんは、とうにいわきにお住まいを構えていらっしゃるとのことで、石倉団地、根柄山団地のことは御存知なかったです。

帰還困難地域でもあり、焼き物を伝承していく世代でもあり、早めにご決断だったとのこと。

二本松、“今は菊人形で人が来ているけど、あとは一年中何も無い所だよ
ここの体験も人はあまり来ない”

“大堀は川に鮎が上がってくれば、釣りに行き、その日食べるものだけとってきたよ、家のまん前なもの”と

いつの日か、先祖伝来の場所が大堀焼が復活できるときまで陶工の方、絵付けの方にエールを送りたいと思いました。

(5) 参加して (個人全体所感、神奈川に向けて)

大変中身の濃い研修でした。

夜の“まじめな話、かたい話などなしで”とのことでと、以前のようにあっち側とこっち側のふんいきがなかったのが、とても良かったです。

“きれい事ばかりの復興じゃ、そんなんでは人は集まらないよ “初めてでした。
こんな言葉を役場の方からきくことができるなんて。

“避難を転々として、やっとここに来て家族みんなで暮らせるようになったのに役場に戻る、今まで以上に家族の絆が深まり、みんなもう離れたくないのに、仕事で浪江に戻る。自分はまた小さなアパート探して当分一人暮らしだよ”と。

店舗も働く方の生活も考えなくてはいけない。家族で戻ることのむずかしさが、これから続くのだなあと思いました。

浪江のこと(昔の)を知らずに仕事をして行くことは並大抵のことではできないしと。シニア世代はとても貴重な存在だと思いましたが、最後の方に“新しい事業への詐欺”“生活保護申請の増加”“避難先での子供の孤立”ましてや“水が出ない、ガスはどうする”までの増え続ける問題。役場を頼りにすることに慣れきってしまった方々に。

本当に、被災者さんの声として吐き出す場のひとつとしての(とても僭越ではありますが)時間でもあったと、まだまだ伺っていたいと思いました。



(6) 浪江町様へ（町長、町役場、町民の皆様へ）

宮口様、中野様、杉本常務様

貴重な時間をありがとうございました。

マルシェオープンをひかえ、さぞかしご多用であった土日を私共 kfop と同行視察、沢山のお話し、皆さんのお人柄と共に、心にしみ込む時間となりました。

帰還困難区域の方々がどんな風に折り合いをつけようかと、まだまだそのときは続いて行くのだなど。浪江はこんなに広く、改めて思いました。

どうしても請戸の浜、津島の行列（あの日の）は沢山の方から伺っていましたが、初めて自分の足で入ることができ、ザワザワしました。

請戸小学校の一年生のときから校庭をぐるぐる走らされるというお話し、車椅子を途中でやめ、先生が背負われて山越えした話し等。もっともっと皆に知らせたいことです。

“きれい事ばかりじゃ皆か帰ってこない、人は集まらないよ”の言葉が印象的でした。

作業員さんの私達のグレーなイメージが不思議でしたが、なるほど、浪江サービス業が復活すれば、人の動きは変わるのですネ。働くだけで皆さんどうしているのか本当に聞きたいことでした。どんな形であろうと発展のきっかけ何ですネ。

若いお母さんたちの孤立、子供の愛し方がわからないなど、他の町も、沢山の沢山の課題が山積みですネ。福島のことを、まだまだ皆さん苦しめられていることを何で思わずにいられることでしょう。

kfop は思いに溢れている方が集まっています。微力ではありますが、どうぞ、どうぞ、いつでも思いを馳せています。

ありがとうございました。

【参加者 No.6】

(1) 浪江町内視察して（事実・感じたこと）

中野係長さんの「ここに町並みがあり、全て津波で流されました。」と請戸地区の案内がありました。草で覆われたここに、町並みがあり津波で全て流されたことが想像できない状態だった。草の間から砕かれたコンクリートの小山や家の基礎コンクリートが所々に見え、津波に襲われたことが想像できた。海を見ることができたら、津波のイメージがつかめたように思ったが、7m の堤防の土盛り工事で隠れていた。被災各地の復興の様子は、ニュースで

目にしていましたが、ここ浪江は何も手が入れられていない、止まったままである。原発事故放射能のためであることを改めて感じ、放射能の怖さと被災地福島は、別格と考えられる。

請戸地区慰霊碑にお参りするため立った所から、南に東電第一原発と双葉海浜公園マリーンハウスが白く小さく見え、津波がここを襲ったことがイメージできた。更に大平山の町営霊園から、目の前に手を広げたような草原、ここを津波が凄い力で押し寄せてきたことが分かった。副町長さんの話で、請戸小学校の子ども達はここまでみんな避難し無事だったことを聞いた。見ると学校からかなりの距離があり、1年生もしっかりここまで避難したことが凄い、どんな気持ちで避難したのかと思った。普段の避難訓練や意識、当時先生方の判断と子ども達の行動が素晴らしと感じた。

復興として「霊園」を見たのは初めてだ。こんなに早くつくったこと、心の居場所繋がりをつくるのに大きな意味を感じた。

人の居ない浪江駅、人の居ない駅前でも、早く町の人々が戻ってくるようにきれいに整備されていた。

町役場が避難指示解除準備区域になり、業務ができるようになった。でも1階だけの2階から上は震災当時のままこれから整理をする。整理するにも、当時の職員も退職したりして人が居ない。まだまだ大変である。それでも、町役場の敷地に仮設商店が建っていた。オープン間近で町民が戻ってこれるものが見えるようになってきていた。

町を貫く114号線(富岡街道)は、帰還困難区域のため許可をもらって通行、そのため入るときに身分証明書を提示で確認され、出るときはスクリーニング場で確認され、帰還困難地区だと緊張した。渡辺さんの話で「ここは空間線量、これを見て…」と教えられ更に驚いた。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

宮口副町長の熱い語りが残りました。それだけ大変であり、頑張っていることが伝わってきました。

一番心に残ったことがあった。学校問題、子どもたちのことである。しっかり話を聞き取れていないが、愛情不足、放射線問題、浪江のときは町全体で支えていたが、避難所では対応できない、それを町にもってこられても困ると言う話であった。これからの浪江町を創る子ども達、浪江を支える子ども達のことを大切に受け止め組んでいることを知った。

なみえレポートを見て 浪江町は、東京電力福島第一原子力発電所事故の放射線量による、避難指示解除準備区域(9%) 居住制限地区(10%)、帰還困難区域(81%)と大部分が放射能で入れない。入れないことは、何もできないこと、その中で復興まちづくりが考えられ、計画的に進められている。



1,700人いた小・中学生が、学校再会した浪江小・浪江中・津島小で25人、中々大変なことが分かった。その中でも郷土を愛する心を育む授業「ふるさとなみえ科」が創設し、浪江の心を伝える取り組み、横浜でもやってはいるが、もっと総合の時間の方向と意味を考えたい。「ふるさと横浜、わが町」浪江町と同じ気持ちで見直したい

21,434人いた浪江町民は、現在住民登録約18,000人、避難を余儀さら全国に散り散りになった町民の繋がりをつくり、元の浪江を目指し取り組んでいる。約3,000人の人は浪江町に戻らないのか？戻れないのか？

復興まちづくりの目指す姿では、4つあげる中の1番目の『原子力に依存しない、エネルギー地産地消のまちづくり』私たち私に問われている。

(3) 復興公営住宅（石倉団地、根柄山団地）建設場所を視察して（事実・感じたこと）

復興公営住宅がやっとなり、間もなく入居のできる状態だった。入居が決まっている方から「キャンセルがありました。」と、でも時間と共に仕事や子どもの学校、将来の見通し等々多くのことが変化することを考えると生かし方がない。それでも町役場も町民に添った対応と見通しをもって行政を行っているが、難しさを感じた。

人が生活するには家があるだけでは生活できない。生活を支える病院、買い物するお店、その足になる交通機関、仕事など関連してできなければ生活ができない。また、震災から5年、この5年間生活し築いたものを置いてのスタート。ここにくるまで何度引越をしたのか。多くの選択をしてきたか考えると苦勞を分かることはできない。

浪江町民全員避難、福島県内外全国に避難した住民を把握連絡、町民の気持ちに添った復旧復興への推進。しかし、時間の経過と共に町民の気持ちや環境の変化で町への要望も変化し、その変化を見通した町づくり計画の実施。また、国や県との対応、制度の足かせ等々大変なことがいっぱいあること、いろいろ問題や諸条件を伺うことができた。でも、役場の方々は、町民の気持ちを大切に震災前の浪江を目指し、日々頑張っている。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について（事実・感じたこと）

工房では、絵付け体験の前に、現状とこれからの話が聞けた。一番ショックだったのは、もう浪江には戻れない。

陶芸の材料である土は汚染され使えないそう。良い土あって生まれた大堀相馬焼き、汚染された土は使えない、こんな所まで放射が影響している。しかし、窯元が力を合わせ大堀相馬焼の歴史を繋げるために、場所が変わっても、大堀相馬焼きを続けると言っておられた。

二本松工房での絵付け体験、伝統の相馬、馬の絵を描いた。この土も浪江でなく別の所から取り寄せたとお聞きしました。素焼きの湯飲みに、筆を走らせると、スーッと染みていく不思議さを体験した。

(5) 参加して(個人全体所感、神奈川に向けて)

浪江は、南相馬(小高)へのバスで通過するだけ、それも夕方に様子を見るだけであった。研修では、町役場の方々の説明を聞きながら見学、浪江の土を踏んだことに意味があった。

3月11日の地震・津波からの4日間、何の情報も無い。連絡が取れない中を避難した様子を聞き驚いた。ちょっと想像もできない。町役場の人も被災者である中、町の方々を安全に避難指示支援、大変なことだったと思う。

そのとき私は、津波の映像と原発の上をヘリコプターが水を吊り下げ、建屋の上に水を掛けていたのを見て、これどんな意味があるのか、何をやっているのと見ていたのを思い出した。同じそのとき浪江は大変だった。

請戸小の児童が安全に全校避難したことも知らなかった。児童全員が大平山までの長い道を安全に避難したこと、もっと詳しく学ばなければ。

神奈川に向けてが、いつも課題です。福島をどう伝えるか。行ったことが無い所の旅話を聞かされる気持ちを考え、聞かれれば話し積極的ではありません。相手から「今も、福島行っているの?」「ボランティアやっているの?」と聞かれると「うん。月に1回バスが出ているのだけど、なかなか毎月行けていません。…」と話すが、関心の薄さを感じます。でも、そのように問いかけてくれること、顔を合わせると私が福島に行っていることが言葉に出るだけでも良いのかなと思っています。でも、もっと積極的な関わり方がないか。

(6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

宮口副町長さんと中野避難生活支援係長さん、2日間貴重な時間を私たちのためにご案内を頂き有り難うございました。

宮口副町長さんの熱い話をもっともっと聞きたかったです。

地震、津波、原発放射と重なる災害の状況と、その中町民避難を指揮支援する大変さと苦勞、浪江町復興へのプラン、新しい浪江を見せていただきました。その中で、ロボットのような巨大な廃棄物処理工場が早く無くなる浪江町を目指したい。

中野さんの話では、津波で家が流された分かったとき、「子どものへその緒が流されてしまった。」と思ったと聞きました。この言葉を聞いたのは初めて、母親の心に触れたようでした。

「なみえ復興レポート」の「復興まちづくりの目指す姿」

『原子力に依存しない、エネルギー地産地消のまちづくり：再生可能エネルギーを活用し、少ない電力を効率的に利用』

今、原発再稼働のニュースを耳にし、東日本大災害の教訓は、国の方向は、何となく生活している自分、もっと自分の生活を見つめ直し高めることを浪江町のみなさんから教えられ



ました。

これかも浪江町のことを知り、浪江のお手伝いをしたい。浪江町の皆様ありがとうございました。

【参加者 No.7】

(1) 浪江町内視察して (事実・感じたこと)

10月22日(土)午前11時40分、避難指示解除準備区域にある浪江町役場に到着し、宮口副町長の説明を受けた後、中野避難生活支援係長も同乗して浪江町の市街と請戸地区の視察を行った。

浪江町は平成23年3月11日、東日本大震災の発災により震度6強の地震と高さ15mを超える津波により全壊家屋651戸(地震による倒壊65戸、津波による流失586戸)の被害を受け、死者182名の被害が発生した。津波による浸水面積は港湾・水産加工場などが集中していた海岸部の6km²におよび、約1000事業所が被災した。さらに、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により、浪江町は町内全域が避難対象地域になり、7,671世帯21,434名が福島県内外に避難した。このうち、県内避難者は約70%、14,500名、県外45都道府県に避難した者は約30%、6,400名である。

浪江町は223.1km²の面積のうち、年間空間放射線量50mSv以上の帰還困難区域が81%を占め、20~50mSvの居住制限区域が10%、避難指示解除準備区域が9%となっている。

町役場がある避難指示解除準備区域については除染の進捗に伴い、平成29年3月に避難解除指定を、4月からは町民の一部帰還を目指すとしている。帰還を希望する町民は「帰りたい。しかし、働く事業所や食料・生活用品を購入する商店、医療機関などがないと帰還できない」と考え、商店・医療機関などの事業者サイドは「帰還・出店したくても、住民がいなければ経営が成り立たない」と考える。このため町民の帰還に向けての浪江町のイニシアティブで、町役場に隣接して仮設商店街が10月27日に開業とのことであったが、仮設商店街のテナントも帰還予定の商店ではないという。また、町役場の隣に建設中の医療センターは医師や看護師などのスタッフの確保が難航していて、現役をリタイヤしたシニア従事者を確保したいとしていた。

津波による死者182名(内、行方不明31名)の被害を受けた請戸地区では、旧防潮堤を2mかさ上げした高さ7.2mの防潮堤が建設中で、請戸漁港および荷捌き場など関連施設の再建工事も進行中であった。

巨大な廃棄物減容化処理施設が市街地や漁業関連施設のがれきを焼却稼働中で、近くにはがれきを仮置きする大きなヤードが複数あった。また、民家の土台コンクリートが各所で掘り起こされていた。

海岸から 600m の地点にあった請戸小学校は、震災発生時学校に残っていた 2 年生以上の児童全員が 1km 程離れた大平山まで走って逃れて助かった。津波の被災跡が生々しく残る校舎は震災遺構として保存するか否か検討中とのことであった。犠牲者の眠る町営大平墓園の奥山を越えた地点に、浪江町では住宅団地と工業団地を造成することとしている。高瀬川を越えて旧市街地に戻ると事情が異なってきた。

帰還後の対策として、浪江町では元の老健ホームの建物の一時休憩施設へ再利用、雇用促進住宅改修による町営賃貸住宅 80 戸の確保、地域スポーツセンター、浪江東中学校の小・中学校統合化などの準備をしている。

避難指示解除準備区域では、川添地区などの除染と除染後の宅地管理が切実な課題となっている。現在、宅地の除染は 80%以上、農地の除染は 50%が終了しているが、住民が帰還しなければ宅地も農地も 2~3 年で草木が茂る除染前の状態に戻ってしまう。

常磐線は平成 29 年 3 月に仙台~浪江間が開通する予定で、浪江駅を視察したのち、浪江町中心街を視察した。老朽建物は倒壊したり破損したままで残されているが、浪江町中心街は歓楽街としての面影を残していて、浪江町の経済力と周囲の町村への求心力を物語っていると思われた。官公庁やホテルなどコンクリート建物は見た目には被害は少なく、容易に利用可能なものと思われる。中心部のホテルなみえは現在も昼間の浴場利用は可能であり、4 月以降の帰還に備えて事前に行う準備帰還の際の宿舎として使うということである。

R114 号線の検問所を通り、帰還困難区域の津島地区に入ると、除染も行われていない沿道の田畑はヤナギなどが生い茂り、荒廃していた。宮口副町長は「ここはすべて水田だったところです」と、繰り返して説明した。道路両側に繁茂する草木の伐採も年間に 3 回程度実施しなければならないが、その財政負担も大きいという。旧道沿いにある集落も草木に飲み込まれるようにしてひっそりと残されていた。

冬は凍結して危険という峠道を経て、浪江町民 1,715 名が避難している二本松市平石の高田第二工業団地の一角にある浪江町役場二本松事務所を訪問した。平成 23 年 3 月 12 日、福島原発(1F)の事故のため政府の緊急避難指示により、全町民 21,434 名が 20 km圏外に道路渋滞の中避難した。

浪江町民は福島市・いわき市・郡山市・二本松市・南相馬市など県内 30 市町村に 14,482 名が、茨城県・東京都・宮城県・神奈川県などの都道府県に 6,376 名が、仮設住宅あるいは借上げ住宅に分散して避難することとなり、町役場も 4 回移動し、避難者の多い市には支所も開設した。

浪江町民のサポートの困難さ帰還と町の復興の難しさを痛感した。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

バス車中で宮口副町長から被災の現状と復興への課題を説明頂き、次のようなことを思った。

- ・多数の市町村や県外に緊急避難した町民の移動・救護・避難場所の確保・衣食住その他の生活支援、町民の諸々の要望への対応などの任務を突然課せられた町長はじめ町役場の職員の苦悩と決断などが如何に大変であったことかと思った。
- ・全国に 21,000 名の避難者、県内だけでも 30 市町村に 14,482 名の避難者が分散している現実と、広大な町域の浪江地区と津島地区をベルト状に縦断する年間空間放射線量 50mSv 以上の帰還困難区域と 20~50mSv の居住制限区域合わせて 91%を占めるといふ難しい現実を前に、浪江町の住民の帰還と復興をどのように進めるのだろうか。
- ・避難指示解除準備区域の面積は町域のわずか 9%に過ぎないが、震災前は官公庁・公益施設、駅、商業施設などが集積していて、周辺の市町村も商圈を広げていた浪江町の経済力の大きさが伺われた。今後の復旧でも拠点である。しかし、平成 27 年 9 月の町民へのアンケート調査結果では、「帰還希望」が 17・8%、「戻らない」が 48%、「判断がつかない」が 31.5%、無回答 2.7%であるという。「にわとり・卵」論に決着をつける意味で、浪江町が役場付近で進めている仮説商業施設「マルシェ」の成功と、建設中の医療センター「浪江診療所」のシニア医療スタッフ求人が良い結果に結びつくよう祈りたい。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

23日(日)8時半頃宿舎出発、車窓から、宮口副町長と中野避難生活支援係長のご案内で、二本松市内に建設中の県営復興公営住宅を視察した。石倉団地集合住宅は3階建て6棟の共同住宅145戸で一部は完成、一部建設中で11月から入居開始とのことであった。根柄山団地は戸建ておよび2戸連棟建てで住宅67戸が入居する。すでに完成した住宅から入居が始まっていた。両団地とも生活再建および復興と帰還への浪江町外拠点と位置付けられ、住宅の他、広場、集会所、診療所、住宅用および施設用の駐車場などを整備する計画で整備工事が進行中であった。

入居したばかりの避難者のお一人の好意で外から間取りなどを拝見させていただいた。「しばらく暮らしてみなければ適切に評価できない」とおっしゃって具体的な内容は聞けなかったが、避難者の生活再建がなり、明日への意欲も生じ、浪江町の復興と帰還にもつながれば、この町外復興拠点復興公営住宅という構想は有効であると思う。

ここに至るまでには、浪江町、福島県、二本松市、関係3自治体の担当者の方々の努力と協力は大変なものであったと思われる。

復興公営住宅視察後、宮口副町長と中野避難生活支援係長に二日間のご案内に謝意を述べてお別れした。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について (事実・感じたこと)

9時50分、二本松市小沢の工業団地内にある大堀相馬焼協同組合の「陶芸の杜 おおぼり 二本松工房」に到着した。45年前、社会科教師の研修会で大堀相馬焼が焼かれていた窯元の一軒を訪れたことがある。相馬焼の独特のひびの具合を初めて知ったが、窯元の具体的な場所は思い出せない。それらの窯元のあった地域は帰還困難区域に位置していたため、全町避難により一時散りぢりになった。大堀相馬焼の維持・継承を図るため、各地に離散した窯元に呼び掛けて大堀相馬焼協同組合が結成され、現在ではここを拠点に制作と普及のための一般車向けの陶芸教室が開かれている。我々も簡単なレクチャーを受けたのち、事前に申し込んだ湯呑や皿の絵付けに挑戦した。上手な絵付けはできなかったが、焼きあがって送られてくる皿を楽しみにしている。

別棟の資料館では、窯元ごとに作品が展示されていた。45年前とは作品の種類や焼きあがった色の具合が格段に多くなり、初めて見る制作に感じるものもあった。

(5) 参加して (個人全体所感、神奈川に向けて)

避難者の多さ、浪江地区から津島地区まで貫く高い放射線量の帰還困難区域の広さ、また震災前に浪江町が有していた商圈の大きさから、浪江町の復興が特に難しい条件下にある。宮口副町長は、浪江が戻らなければ双葉・大熊も小高も戻らず、富岡が戻らなければ檜葉も戻らないといわれていたが、実際にそうかもしれない。アンケート調査結果でも、浪江町へ戻りたい町民の割合は他市町村に比べて高く、一つの光明である、いかにして帰還を実現するか？

- ・避難指示解除準備区域では、川添地区などの除染と除染後の宅地管理が切実な課題となっている。現在、宅地の除染は80%以上、農地の除染は50%が終了しているが、住民が帰還しなければ宅地も農地も2~3年で草木が茂る除染前の状態に戻ってしまう。一旦除染され、草取りされた民家を、小生は今後機会があったら、住民が戻るまで、ボランティアで草取りでもしたい。

宮口副町長と懇談の席で、副町長が政策・施策などの「安全」と「安心」とは違うとおっしゃられたことが重く心に残った。普段、誰もが何気なく使いがちな「安全・安心」も、人と立場によっては両者の間には深い淵が横たわっているのかもしれない。お話しいただいた言葉をかみしめ、今後のボランティア活動のために勉強していきたい。

浪江駅前広場に「高原の駅よさようなら」の歌碑があった。どんな曲か知らないという研修参加者方が多かったが、浪江町出身の佐々木駿一作曲の名曲である。小生は昭和レトロの、純愛の思いのするこの歌を思い出して懐かしかった。

民謡歌手の原田直之も浪江町出身で、新相馬節などを懐かしく思った。小生の住む横浜にも福島県から移り住んだ人も多く、盆踊りにはよく相馬音頭を踊ったのを思い出した。



- ・帰還準備区域の視察を終え浪江町役場に戻ったとき、玄関を入ったショーケースに、ポケモンがずらりと展示されていた。宮口副町長のお話では、ポケモンの原作者の田尻 智の父親が浪江町出身で、田尻 智が少年の頃遊びに来ていた浪江町で見たホテルがポケモンのイメージにつながっているのだそうだ。横浜のみなとみらい地区では毎年8月中旬、ピカチュウが大量発生して大人気であるが、来年はその説明に新しい説明材料を得ることができた。

(6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

浪江町の宮口副町長ならびに中野避難生活支援係長には、浪江町の現状と町民の帰還と復興に向けた道筋について詳しい資料を作成いただき、また町内および二本松市内の現地をご案内・説明をいただき、誠にありがとうございました。おかげ様にて街中や農地など現地の様子がよくわかりまして、困難な状況下、諸課題に直面して課題解決を進められている浪江町の皆様のご苦労とご努力に敬意を表します。

末尾ながら、遠く離れた神奈川県からの民間サイドの視察に、ご多用にもかかわらず、親切・丁寧にご対応いただいたすべての浪江町の皆様に、篤く御礼申し上げます。

【参加者 No.8】

(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)

副町長のご案内で多くの町内を見ることができました。特に印象に残ったのは福島第一原発の煙突が見えたことです。また浪江駅前商店街で椅子に置いてあったままの人形を見たときには胸が熱くなりました。着の身着のまま避難したのでしょうか。家の主は今どこで何をして何を考えているのか等、頭を過ぎりました。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

残念ですが、座席によって良く聞き取れませんでした。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

復興のスピードは各自治体により違うと思いますが、津波被害+放射能被害の福島県はやはり復興のスピードが遅いなと感じました。特に2日目の二本松市の復興公営住宅を見たときに、5年以上経過しているのにまだここまでしかできていないんだと愕然とした思いでした。聞けば聞くほど厳しい現実があることに改めて気づきました。自分たちにこれから何ができるのだろうかと思ってしまいました。また子育てできない母親が多くいると聞き精神的なケアの必要性を強く感じました。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について(事実・感じたこと)

自分も20年近く陶芸を習っているので窯元の気持ちは良くわかります。放射能汚染のために相馬焼き本来の土での作品づくりができないことは断腸の思いだと思います。今は愛知県から土を取り寄せていると聞きましたがなかなか上手くいかないとのこと。また恐らく以前の窯元にはのぼり釜等あったらうに、いまはガス釜で焼いているようでした。作風も変わってしまったでしょう。また日曜日だというのに陶芸教室等開催されていないのも寂しく



感じました。

(5) 参加して(個人全体所感、神奈川に向けて)

やはり自分の目で見てみないと現実の姿を理解できませんが写真等で今回のことをいろんな場面で伝えたいと思いました。

(6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

2日間お付き合いを頂いた副町長様はじめ職員の皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。これからも少しずつではありますが一步一步前に進んでくれることを願います。

【参加者 No.9】

(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)

請戸の港に向かって行く途中、中野さんのご自宅のあった場所へ連れて行って下さいました。基礎だけになってしまっているからか景観がわかりづらくなってしまったようで、ご自宅だと判断するのに少し間がありました。そのようにそこの辺りは何もなくなってしまっていました。津波の自然の恐ろしさを感じました。

浜街道をはさんで海側には沢山の民家があり、反対側は田んぼになっていたそうです。津波でほとんどが流されてしまいました。請戸の小学校も海側にありましたが、津波が来たときには山に向かって逃げるという訓練されていたため、ひとりも犠牲にならず、全員助かったということでした。

学校から大平山まで600mだそうです。小さな子ども達がみんなもしものときの訓練通りに行動ができて、一生懸命山に向かって逃げたんだと思うと胸がくるしくなっていました。

テレビの報道で聞いていましたが、それが今は霊園となっているこの場所だと知りました。みんな助かって本当によかった。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

帰還困難区域を除いて、復興拠点を中心に、水道、道路、鉄道と少しずつインフラを復旧させてこれからの町づくりを計画されているのがわかりました。住まいのこと、学校、診療所、商業施設や働く場所、いろいろな施設が建設予定、整備中、改良と完成に至っているものが少なく、全てのことがこれから少しずつ動き始めて行くのかなって感じました。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

長びく避難生活の中、復興住宅の完成が遅れていて違う場所へ住居を決める方もあり、入居を希望していても完成していないので鍵を先に渡しておいて待ってもらっている状態で、完成した順に居住してもらっているというお話しでした。



町と市と県でいろいろ複雑な問題があるような感じでしたが、長い長い避難生活をしている方々のことを考えると、早く住む場所が決まって落ち着いた生活ができたらいいのなと思った。

根柄山団地を訪れたときは、引っ越しされてきた方の住居を見させて頂くことができました。ご夫婦の二人暮らしのようでした。玄関外に物置のスペースがあり、2LDKの間取りはまずまずのお部屋かなと思いました。他にもお子さん連れの方も引っ越ししていられていました。若い世代の方がいられてなんとなくホッとしました。

宮口さんは住人の方と話をしていて、街路灯がないことに気付いたようでした。夜は真暗になるので早めに設置されるといいですね。これから先も役場の方と住人の方々がお互いに気づいたところを話し合っって良い環境になっていったらいいですね。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について (事実・感じたこと)

素焼きの絵付けは初めて体験しました。小野田さんから書き方の注意点をお聞きしてから始めましたが、見せて頂いたような筆運びなんか全然できずとてもむずかしかったです。

元々は地元浪江の土を使って焼かれていた大堀相馬焼を震災の後は名古屋から土を取り寄せて作られていると伺いました。伝統のある工芸品を守っていくことは困難なこともあり大変なことだと思います。ひび割れが特徴の焼き物がこの先も作り続けられることを祈っています。

(5) 参加して (個人全体所感、神奈川に向けて)

宮城、岩手の被災県が復興していく中、福島の復興の歩みは目にみえておそいと視察を終えて改めて感じました。見わたす限りの広大な土地に家も人々の姿もない、5年7か月が過ぎてもまだ地元に戻ることができない。高い放射能のせいで、この先の生活を決められないでいる方々が沢山いる。一方で復興住宅に入居して新しい生活を始めた方々もいらっしゃる。同じ町に暮らしていた町民なのにみんなバラバラになってしまい、百人いけば百通り、避難されている方の人数分、それぞれが違っていて本当に複雑なのだと思います。町役場の方々は、二本松と浪江町の両方で町の復興にむけて、多少あせりを感じながら一生懸命頑張っっていらっしゃいました。

今回参加させて頂いて、自分はまだまだボランティアの奥の深さやかかわり方とかが充分理解できていないまま活動しているんだとわかりました。これから先もできることはさせて頂きたい思いはあるのですが、思いばかりが先走っってしまうなればいけない。受け入れる側があり、それに合わせて活動しなければいけない、どんどん前に前にではなくて、どちらかという受け身でいなければならないんだということを学ばせて頂きました。

渡辺さん、東さん、視察研修を計画して頂きありがとうございます。参加させて頂いたことに感謝致します。



(6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

宮口副町長様、中野係長様、杉本常務様

視察研修では大変お世話になりました。

休日であるにも関わらず宿泊して頂いて懇親会にも出席して頂いて、とても貴重なお話を伺うことができました。

浪江町の現状をバスの中から見させて頂きながら、また要所で下車のときには当時の様子やこれからどのように復興して行くかなどお話しして頂きありがとうございました。

途中下車で、広い土地一面に咲き誇るコスモス畑を見させて頂いたことは、本当に素敵でずっと忘れることはないと思います。

町が復興するまでには時間がかかりますよね。どうぞお身体を大切になさって下さい。これから先、何かお手伝いできることがあればさせて頂きたいと思っています。

本当にありがとうございました。

【参加者 No.10】

(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)

町の中心部も津波の被害が大きかった請戸地区も、通行の妨げになる道路上のがれき等は撤去されていました。ただ、町内には地震で壊れた家がまだそのままの姿で多く残っており、請戸地区の津波で壊れた家はほぼ解体されて無くなっていましたが、家の基礎が掘り起こされて各家の敷地の一角に残骸として積まれていました。すでに家並みは無く、これから基礎の残骸も撤去されれば、津波の危険地帯で家を建てることができないため、大昔の無人の海辺に戻ることにになります。案内して頂いた中野係長の自宅もその中の一軒とのことでしたが、悲壮感なくお話しされていて、逆にこの5年半の間の葛藤を思いました。

海岸のすぐ近くにある請戸小学校は津波の被害を受けたままの状態でしたが、児童と教職員が近くの大平山に逃げて全員無事だったと聞きました。帰って調べてみると、14:46地震発生から15:33浪江町の海岸に大津波の第一波が到達するまで40分ちょっとしかなく、直後に避難を決断した校長先生や大平山までの約1.6kmを大人でも20分はかかるであろう距離を走った児童たちの緊張感と行動力に、ただただ感心しました。翻って、これから必ず起こる東海地震に向けて、命を守る行動を日ごろから思い描いておかないといけないと改めて思いました。

一方、町民の帰還に向けて、東中学校隣に災害公営住宅地の造成が始まっており、町役場周辺に、仮設商業施設10店舗が10月27日オープン予定、診療所が来年3月開所予定と、



準備が進められている様子を見ることができました。また、避難指示が解除されるまでの特例宿泊が11月から開始予定であり、井戸水を使ってのコメの栽培と販売、新たな農業としてキキョウやリンドウの栽培と東京市場への出荷がH27から始まっている話も伺い、帰還準備がひとつひとつ具体的に進んでいることを実感しました。

今回の町内視察場所は避難指示解除準備区域がほとんどで、除染作業は目に付きませんでした。しかし、8月末時点で宅地の除染は約9割が済んでいるものの、農地は約5割で農地の多い居住制限区域ではまだ時間がかかりそうですし、被災家屋の解体・撤去も8月末時点で3割に過ぎず、これもまだ時間がかかりそうだと思います。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

富岡町、大熊町、双葉町に比べて浪江町は人口が多く、町民の方々は全国に亘って広域に分散避難されており、行政のサポートもご苦労が多いことと思いました。また、住民意向調査結果についてお話を伺った際、町としては現在3割ほどを占める帰還するか否か決めかねている世帯の割合を減らしたい、将来に向けて早く判断して欲しい、その思いから様々な情報発信をし、意向調査も行っている旨のお話でした。町民目線での情報発信がいかに大切か、このお話からも分かります。

なお、住民意向調査結果のなかで、20代の世帯約120世帯の内“戻りたい”世帯の割合が、H26の約3%（約4世帯）からH27に約10%（約12世帯）へかなり増加していて（世帯数としては僅かですが）、他の年代の“戻りたい”割合がほぼ同じであった結果と比べても有意な増加であり、その理由を知りたかったのですが、宮口副町長もこの結果は気になったけれども理由はわからなかったとのことで、ちょっと残念でした。

町の中心部を含め大部分が帰還困難区域にある大熊町、双葉町に比べ、町の中心部の線量が相対的に低い浪江町の復興は、道路・鉄道などのインフラ、農業・商業の再興、町内の公営住宅整備・学校の再開など全てにおいて一歩先んじていると、お話しを聞きまた現地を見て思いました。全町避難が5年半以上も続いており、除染などの計画遅れもありますが、浪江町の復興に向けて行政の方々が頑張っていることが伝わってきました。また、町民の代表も委員となって第二次復興計画が議論されているとのことですので、これからも浪江町の復興に向けて町民の方々と力を合わせて進んでほしいと思いました。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

両団地とも町役場二本松事務所のある二本松市にあり、石倉団地は6棟中2棟がほぼ完成、根柄山団地はほぼ完成で入居に向けて荷物を運んでいる方や下見に来られている方がいらっしゃいました。集合住宅の石倉団地は約200世帯、戸建ての根柄山団地も約70世帯もの浪江町民が集まるので、地域コミュニティ復活の拠点になるはずです。

ただ、入居募集は国の規則の関係からかなり前に行われており、入居までの長い時間の間に、生活環境の変化などで入居辞退が出てきているとのことで、新たな問題となっていました。

**(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について (事実・感じたこと)**

大堀相馬焼、陶芸の杜おおぼりについて簡単な説明を受け、絵付けを体験しました。初めての経験なのでどのような焼き上がりになるのか、焼き物が送られてくるのを楽しみにしています。

(5) 参加して (個人全体所感、神奈川に向けて)

全町避難が続いている浪江町の今を知りたいと思い参加しました。

浪江町の今を見ることができ、そして特に行政の方々からお話を聞くことができ、とても貴重な視察でした。現地に行って現地を直接見ること、そして様々な立場の方々の話を伺うことが、事実を把握するうえでとても大切なことであることを再確認しました。

(6) 浪江町様へ (町長、町役場、町民の皆様へ)

この度の浪江町視察研修に当たって、土日の貴重な時間を割いてご対応頂いた浪江町役場の宮口副町長と中野係長、そして浪江町社協の杉本事務局長、みなさん本当にありがとうございました。

帰還準備がひとつひとつ具体的に進んでいることが実感でき、行政の方々のお話も聞けて、とても貴重な二日間でした。本格的な復興にはまだ時間がかかりそうですが、その間の町民の方々の生活環境の変化も考慮しながら、今後とも行政と町民が力を合わせて復興の具体的な姿を発信し続けていけば、帰還するか否か決めかねている町民が減り、戻りたいと思う町民が少しずつ増えていくのではないかと、そう期待したいと思いました。

来年の町内の一部の避難指示解除と、その先の浪江町の復興ができるだけ早く来ることを、心から願っています。

【参加者 No.11】**(1) 浪江町内視察して (事実・感じたこと)**

浪江町役場→請戸地区→減容化处理施設→中野宅→請戸港→請戸小学校→大平山霊園→浪江駅→新町通り→ホテル浪江→浪江町役場

浪江町役場→立野のコスモス畑→帰還困難区域ゲート→津島スクリーニング場→浪江町役場・二本松支所

熊本の益城町のように地震で家が倒壊しているとか、あるいは岩手の岩泉町のように家が泥まみれになっているとか、被害の痕跡があれば感想めいたものも思いの浮かぶのですが、セイタカアワダチソウが生い茂る「更地」を見ても、かつてそこに人々の営みがあったことを想像することは意外と難しく、ただただ言葉を失ってしまいました。

護岸工事の現場から福島第1原発が見えました。こんなに近いのかと驚かされました。



請戸小学校は児童が避難して全員無事でした。この話を町営の墓地で紹介され、複雑な思いがしました。亡くなった方が眠る場所で、子どもたちは生きていたという話を聞くこと。生死が紙一重だということ。また、大川小学校の避難のケースとはまさに正反対で、避難の難しさを改めて痛感しました。

収容人数が1,800人のところ8,000人が避難してきたという津島公民館。現在ではスクリーニング場として活用されています。原発が見えた請戸港より、山間部の津島地区の方が線量が高く帰還困難地域に指定されていることに皮肉さを感じました。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

遅れがちの除染作業、避難先の拡散・広域化、各方面での人手不足など課題が山積する中で、特に印象が残ったのは教育の問題。児童数の減少、進学悩み、かつては地域で担っていた子育てが今や親だけに負担がのしかかっている現状。ニュースではなかなか伝えられない事実胸を打たれました。

あわせて車中でうかがった震災時の避難の様子。車が列を乱さず避難したこと(反対車線がガラガラだった)、ガス欠する車が続出したこと、とにかく本当のこと・詳しいことを知らされないまま避難を余儀なくされた様子は、5年以上前のでき事なのに生々しく感じられました。

もし、次に同じことが起きたら(起きてほしくはないけれど)、今度はどうなるのだろう。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

石倉団地(入居開始日は2016年11/1予定) 二本松市安達運動場・仮設住宅
根柄山団地(入居開始日は2016年10/1予定)

建設中の集合住宅と、モデルハウスのような一戸建て。仮設住宅での生活から一歩前進することになるのでしょうか。前日の請戸地区と同じように、日曜返上で集合住宅は工事の真っ最中でした。予定より遅れているせいかもしれません。

一戸建ての入居予定者の方に話を聞きました。やりとりから察するに、どうやら我々のことを神奈川県に避難している被災者と受け取ったようです。街灯がついていなくて夜は真っ暗だとおっしゃっていました。不満や注文はあとからあとから出てくるもので、行政の方の苦労がしのべれます。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について(事実・感じたこと)

焼物の良し悪しが分からず、無関心でした。それどころかすぐに割ってしまうからと身の回りはプラスチック製品があふれています。当日も、持ち帰る途中で割ってしまいそうと買うのをためらってしまいました(給料日前ということもありましたが)。ただ、焼物っていいかもと感じたことも確かです。お菓子やお酒や野菜だけでなく焼物も、買うことで被災地を応援することにつながるんですね。自分の守備範囲の狭さを痛感しました。



下絵描き、楽しかったです。絵筆を持つのは高校以来？ 何か忘れていた感覚が呼び起こされたように思います。

絵に熱中して工房の方のご苦勞に思いを馳せることがおろそかになってしまったかもしれません。申し訳なく思います。

(5) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

今回の視察では、厳しい状況の中、復興に向けて動き出している様子が感じ取れました。

町役場のオープン直前の仮設店舗、港の工事現場、営業を始めたホテル。大変だ大変だという状況から、一歩前に踏み出した感じ、方向が見えてきたような印象を受けました。

現在浪江町でボランティアは演芸やマッサージなどの慰勞と引越し支援を募集していますが私でもできることがあるかもしれません。その際はお手伝いに伺おうと思います。

(6) 浪江町様へ（町長、町役場、町民の皆様へ）

「いちばん苦しいのは町民、なんです」

視察中、宮口副町長や中野係長から何度もこの言葉を聞きました。そうはいつでも行政の方だって町民でしょう。なのに「苦しいのは町民」だとキッパリ言い切る口調に覚悟を感じられました。また自宅跡を紹介された中野係長、吹っ切れたような口調が強く印象に残っています。

みなさまには今回私たちのために貴重な時間を割いていただいて感謝しています。休日返上は請戸港や集合住宅の工事関係者だけでなく、宮口さんや中野さんや杉本さんも同じことですよね。復興への道は長くなることと思います。ご無理なさらないうご自愛ください。

いずれ浪江町がボランティアを必要とするとき、お手伝いに伺うつもりでいます。

【参加者 No.12】

(1) 浪江町内視察して（事実・感じたこと）

4階建ての立派な庁舎

職員が戻って稼働する日も遠からじと聞き少し安堵

商店街がオープン前だったのが残念。店舗は入ったがコンビニもアルバイトが見つからないとのこと。1500円の時給でも応募がないと。病院も民間では無理で町営で再開。医療従事者もコンビニ同様で人手不足。

スーパーや病院がなければ帰還できず、人がいなくては経営がなりたたず。

高齢者も若い世代も安心して帰れる日が早く訪れますように。



(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

浪江が元気にならないと双葉、大熊も元気にならない

浪江駅周辺に活気が出てくると他の町にも人がもどってくるかなあ。

「シングルマザー」に関しては何とも言えないが、子育てに関しては力を入れ、愛情をそそぎ育ていける日本であって欲しいと強く感じた。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

大型店も至近でくらしやすそうな団地であるが、公募が殺到している状況ではないとのこと。住民票は残し浪江町民として町外に、そして集合住宅にというのは都会とは違い、むずかしいものがあるようである。

建ったはいいが、空家ということにならないといいが。

山の上にある仮設に住む方々はどんな思いで見ているのだろうか。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について(事実・感じたこと)

小学校か中学校以来の体験

楽しませていただきました。

おおぼりで再開できるといいですね。

(5) 参加して(個人全体所感、神奈川に向けて)

次々と起こる災害で東北、福島、原発、3.11がうすれてきている様に感じる。

まだまだ終わってはいない、過去のことでない。

思い出し、忘れず、足を運ばずとも、被災した方々の気持ちを想像してもらいたい。

(6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

ここが我が家の土台です、なんて明るくお話しされて下さいました。

行政職員ですが一町民。思い切り泣いたり、おこったりできている(してきた)のかなと少し心配になりました。

【参加者 No.13】

(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)

以前の繁華街の様子がうかがえ、同時に撤去された家屋・解体途中の家屋・全く手を付けられていない現状が他の問題と同じような感じを受けました。

一部営業を始めたホテルや仮設商業施設のオープンなど、少しずつ事業再開に移行中でした。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

海・山・川、自然に恵まれた浪江町の当時の様子は、職員の皆さんの中に生きているようです。復興事業が進み元の町の様子が様変わりしていくのだとバスの中から基礎だけになった住宅を見ました。避難指示解除後の生活基盤は、かなり大変な状況だと思いました。



外食産業の米が福島産が増えているそうで、作った方々の思う価格にはならないことは残念だと思いますが、備蓄米になるよりはおいしいお米をいい状態で食べた方が少しは良いのではと勝手に思いました。

米から花に転向する方も増えていると伺いました、花のまちになっていくのも一つなのでしょう。

(3) 復興公営住宅（石倉団地、根柄山団地）建設場所を視察して（事実・感じたこと）

二本松の復興公営住宅は、避難指示解除になると入居資格がなくなるそうで、入居決定するものの結果的にキャンセルになることもあるそうです。

根柄山団地では入居したばかりの方が部屋を見せてくださいました、これから寒くなったときにこのスロープが凍るのではと心配なさっていました。いい感じの入居者同士が集まり新しい集落となるといいですね。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について（事実・感じたこと）

皆さん素敵な馬を描いていました、相馬焼はたくさんの作家さんのものが販売されていてお茶碗を購入しました。日曜でも人が少ないとおもいつつ、相馬焼は好きな方も多いので絵付けをする場所が人の多い場所にあるといいのかもしれないですね。

青ひびが大堀相馬焼のイメージだったのでそれかなと勘違いしていました。

(5) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

浪江町の牧場・牛の様子を見たいと思っていました。いつか話を伺ってみたいです。町が広く、除染や仮置場、家屋の管理などまだまだ山のように問題がある中、コスモスの花に癒されました。

隣のマリーナハウスふたばがこれほど近いのだと気づき、請戸小学校の避難は知りませんでした。日々の備えとそのときの判断力が大切なのかを考える機会になりました。

(6) 浪江町様へ（町長、町役場、町民の皆様へ）

今回は皆様の明るい対応に感謝いたします、次々と問題が発生、その対処に追われ休む間もないのではないのではと思いました。

これから戻ってきた町の方々が、その決断をよかったと思えるような浪江町になるといいと思います。住民の抱える不安を取り除けるような仕組みができるといいですね。

**【参加者 No.14】****(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)**

福島第一原発の建物の一部が見えたことは衝撃でした。多くの人々の運命を変えた建物を自分の目で確認したことは、私にとってはとても複雑な思いです。目に見えない物の恐怖は私たちには計り知れません。前回富岡町の視察の際、第二原発施設の一部に立ち寄れたこととともに、心に刻む思いがありました。

また、町内を歩きながらこの8月にボランティアで南三陸に行ったことと比較し、あまりの違いに今さらのようにおどろきました。手つかずのままの壊れた家屋や、日常使っていたであろう品々をほうり出し避難しなければならなかった浪江町の現状と、どんどん復興が進んでいる南三陸、、、その温度差になんとも言えない落胆?、、、ためいきがでる思いでした。役場の方々の思いも、行政側からの話をゆっくり聞けたことがなかったので、自分にとって勉強になりました。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

なみえ復興レポートに関してのご説明があまり聞き取れなかったので、何を書いて良いのかわからず、申し訳ありません。本当にすみませんでした。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

震災があってから、すでに5年半の年月がたつというのに、まだこの状態なのだ、、、と言うのが正直な印象です。また、南三陸との比較になってしまいますが、どちらの建物も、新しく機能的?にできていて、快適そうに見えます。しかし、決定的に違うのは、その早さ、、、既に南三陸では、人が住んでかさ上げも終わり、目に見えてどんどん進んでいる。2年くらい前の南三陸を見ているようでした。

ただ、こちらの公営住宅は、立地的には多少買い物には不便でも、南三陸、山元町などより、考えられていると思いました。私は実際にそこに住むわけではないので、えらそうなことは言えませんが、、、時間がかかったぶん、他の自治体の例を見て、考えることはできたのかもしれないと思ったりしました。

2日目の二本松市の公営住宅は、高齢者が住まうには良い場所だと思いました。都会や、私の住んでいるまわりでは、高齢者は孤独です。みんなで集まって住む公営住宅なら同じ思いをかかえた人たちだからこそ、寄りそって生きていけるのかもしれない。そんなことを考えました。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について(事実・感じたこと)

こんなこと言っているのかわかりませんが、楽しかったです。ボランティアには何回も参加していますが、東北にこれだけ足を運んでいても、作業はしても「文化」にはあまり触れることができないような気がします。もちろんボランティアの意味は、そういうことではないのは承知していますが、今回のように300年あまり続いている、芸術に実際に触れることができるととても感動し、本当に純粋にうれしかったです。



ただ、気になったのは、日曜日の穏やかな天気にもかかわらず、私たち団体以外の方の姿を見かけなかったことが残念です。それで経営は成り立つのでしょうか、、、などと考えていました。

私の母親のおみやげに、にわたりの焼き物を購入しました。とても喜んでくれました。こうして、こういう所でお金を使うことも微力ながら自分にできるボランティアだと思っています。

(5) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

今回のような視察に参加させていただくのは2度目です。前は誰にも見てもらえない満開の桜、、、今回は静かにゆれるコスモスの花、、、私は、お花の教室もしているので花を見るととくにいろいろな思いを感じさせられます。山元町の3年前に行ったときには、一面のシロツメ草、津波で家は流されたのに、お庭に植わっていただろうバラの花や菊の花が荒涼とした何もない土台だけの庭先に咲いている、、、副町長さんや係長さんのお話はもちろんとても心に刺さりましたが、視察から2週間たってレポートを書きながら、私の頭にまっ先に浮かぶのは、あのコスモス畑なのです。「花は咲く」という唄にもありますが、どんな場所でも、どんなつらいことがあっても花は咲くんだ、、、そんなことを、どの場所にボランティアに行っても、思ってしまう。泣きたくなるような、そんな気持ちにさせられます。

南三陸のまなプロの方が言っていました。「これから必ずやってくる新しい災害の役に立ててほしい。学んでほしい。」その言葉の意味と津波だけでなく原発という災害にみまわれた浪江町を自分の足でまわってみることで、再認識できたような気がします。

これからもぜひ、このような視察の機会がありましたら、参加させていただければと思います。

(6) 浪江町様へ（町長、町役場、町民の皆様へ）

まだ落ち着けない日々をすごしていらっしゃる皆様の日常を拝見させていただきありがとうございます。行政側の方々と一般の方々と立場は、それぞれで大変な思いをされたことでしょう。でも、被災されたということでは、みなさん同じなのですね。私は今回で12回くらい？東北に足を運んでいます。高校生の頃は南相馬に友人のおじいさまが住んでいたのでも夏になると来ていました。まさか自分の人生のなかでこんなに何回も東北地方に足を運ぶことがあろうとは思いませんでした。星がきれいな町ですね。私にできることは、本当に微力で、たいした役にはたてていません。それでもこれからも、足を運ばせていただきたいと思っています。

明日できることの奇跡を教えてください、みなさんのお役にたてることと、自分のために、、、とあえて言わせていただくことをお許しください。どうかみなさまも、お身体を大事にしてください、又、お会いできることを願っております。

【参加者 No.15】**(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)**

町役場の3名の方々にご案内いただき町内視察をさせていただきました。

立ち寄らせていただいた町役場の瀟洒な建物、内部には彫刻などの芸術品がふんだんに展示されこの町の文化性の高さが感じられる。

原発事故により全町避難を余儀なくされ、あの日、21,000人を越える全ての町民が着の身着のまま去ったこの町は、正に「時間の止まった町」を感じさせる。

海岸部では津波による家屋流出の傷跡も生々しく残るその中、車中より減容化プラントの施設を外側から見学する。総重量約29万トンの震災廃棄物が来年度末までに処理される予定とのこと。

遙か先には平成29年春に漁船の帰還を目指す請戸漁港が見える。

バス車内、そして避難した大平山から請戸小学校の校舎を見せていただく。震災当時、全ての児童を無事避難させたという事実は、学校現場の教職員が危機管理意識を持ち、万に1つの発災に向け日頃から積み上げられた準備の結果だったと実感した。

道路端に設けられた慰霊碑にお参りさせていただく。

復興計画により記念公園となる海岸部。遠くに目をやると前回見学させていただいた双葉町のマリンハウスが見える。復興拠点を中心に企業誘致を進め、産業団地やその一部には小型無人飛行機(ドローン)の発着場の整備計画もあるとのこと。

平成26年より一部の水田で実証実験が開始され、翌年より米の販売も始まっている。

町内での除染作業は、帰宅困難区域を除いた区域で宅地の87パーセント、農地の約5割で除染作業が終わっている。ホテルなみえを使った帰宅支援一時宿泊施設の開設や、町役場の近くでは仮設商業施設のオープンも間近とのこと。インフラの整備も進み、鉄道〔JR常磐線〕では浪江駅以北は平成29年春、そして平成32年春には全線再開を目指し、既にバラストの交換がなされていた。震災以来中断されていたスポーツ施設の工事が完了し、少しずつ町へ人々が戻る様子もうかがえる。

居住制限区域の中にある立野の田圃では、今、米作りを再開できぬまま6度目の秋を迎えたが、農地の荒廃を防ぐためコスモスの種を蒔き育てていらっしゃる農家の方が前日のニュース番組で放送されていた。折しも開花した田圃で農家の方にお会いすることができた。これまでのご苦勞を笑顔で包むたくましさにただただ頭が下がる。

町の大半を占める帰還困難区域へと入る。手の入らぬ田圃は雑草だけでなく樹木も繁茂し、すっかり野山に還ってしまっている。主の帰りを拒むかの如く敷地には雑草が覆いつくされ



ている。ゲート入り口から出口まで約 20 キロ、バスは R114 号線をひたすら走り区域の広さを実感する。灌漑用として作られ大垣ダムの底に沈む高線量の堆積物についてうかがう。容易に解決できる問題をではないが、当の地元の方は淡々と受け止めていられる。

二本松市。市内に避難されている方々のよりどころとなるなみえ町役場支所に立ち寄る。町としては広すぎるエリア。人材の確保が気になりました。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして (事実・感じたこと)

バス車内のマイクが音量が不足し、断片的にしかお話を聴き取ることができませんでした。内容的にはご自身も被災者と言う立場で住民への対応して来た中での難しさや、町の帰還への思い。豊かな自然に恵まれたこの町を愛する思い。嘗てこの町のにぎわいはこの地域ではランドマーク的存在であったこと。町を再生させるための様々な要素、その1つとして女性の力が欲しい。そう言う政策もありではないか。と言う様なことを仰られていたと思います。

(3) 復興公営住宅 (石倉団地、根柄山団地) 建設場所を視察して (事実・感じたこと)

駅にも近く、比較的立地条件の整った住宅団地だと思いました。住まわれる方々が選択に迷われる制約などが有ることに、縦割り行政の問題を改めて感じました。実際に建設が完了したときに空室が多く生じてしまうのではないかと危惧します。

安定した暮らしの基盤となる住居が提供されるまでの長い道のりを感じます。今回拝見した住宅団地は町暮らしの方向け、農家を営まれていらした方には新しい農地などの斡旋などはないのでしょうか。個人で頑張るしかないのでしょうか。そんな疑問が後から湧きました。

復興基本方針にある、「どこにいても浪江町」の様に、町民お一人お一人が納得できる場所でゆっくり羽を伸ばして暮らせる日が1日も早く来ることを願うばかりです。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について (事実・感じたこと)

帰宅困難区域に位置するおおぼり窯、土こそは他の土地で採れた物ですが、窯元の方が作られた素焼きの器に下手な絵を描いてしまうのには少々抵抗を覚えますが、おおぼり窯について少しでも理解ができ、生計への助けに成ればと思い参加しました。

素焼きの器の肌は、筆を載せれば瞬時に水分が吸い込まれ、筆を思う様に進めることができず、見事な騎馬農地の絵で有名な相馬焼の凄さを改めて感じました。窯元により色使いや作風も様々で多くの方に愛される所以が理解できました。子どもの頃、祖母が大切に使用していたあの器を道の駅で何十年振りかで見たと、とても懐かしく手に取ったものですが窯元の方の土探しから始められたご苦労と器づくりに向けられたひた向きの思いを伺い魅力を感じました。

(5) 参加して (個人全体所感、神奈川に向けて)

研修に際し、現地との調整を始め貴重な資料を揃えて頂き大変中身の濃い研修をさせていただくことができ、改めて感謝申し上げます。



2 日間の研修に参加させていただき浪江町の現状を知ることができました。計画の下、復興は進んではいるものの、多くの課題を抱えている様に感じました。

人の居なくなった町の中を実際に歩き、住民が先の見通しも持たぬまま、町を去った日からの長い歳月を思うと、改めて原発の恐ろしさと人間の傲慢さを思わずにはいられません。

この夏、郡山の方と話をする機会がありましたが、関心が薄れてきているのか、もう考えたくないのか同じ県内の方でも現状を知らないことに驚かされました。家族を含め私の周囲でも最近でも話題に出ることは殆どなくなっています。ですが、現状を見せていただいた 1 人とし機会をとらえ伝えていきたいと思えます。

(6) 浪江町様へ (町長、町役場、町民の皆様へ)

この度は、業務ご多忙の中、休日にも関わらず私達のために貴重なお時間を割いていただき心より感謝申し上げます。

浪江町の現状を拝見させていただきまして、町の再生を目指し基本方針に基づき復興計画を進めていらっしゃる状況を理解することができました。自然災害に加え、原発事故の被害を被ったために復興への道のりが更に遠く厳しいものになっていることが改めて解りました。ある日突然、町から追われた日から間もなく 5 年と 8 ヶ月が経とうとしています。1 日も早く町民皆様の下に平安な日々が戻られますことを心からお祈り申し上げます。

【参加者 No.16】

(1) 浪江町内視察して (事実・感じたこと)

浪江町庁舎には土曜日というのに、人の出入りが多く感じられ、帰還に向けてようやくではあるが、順調に準備が進んでいるように最初は思った。しかし庁舎隣接スペースには仮設商店街の建物は完成して、間もなくオープンだというのに、コンビニ店員が自給 1500 円でも集まらない話や、役場の臨時職員の応募がほとんど無いなど、働いて町を支える人が全然足りない現実にも愕然とします。

沿岸近くにはコンクリート片の瓦礫の山がアチコチ残っていて、かつて多く家がそこにあったのがわかる。請戸漁港は堤防かさ上げ工事の真最中。高い堤防の土盛りはやはりこの土地でも行われていて、海があまりみえなかった。途中、中野課長の「ここが中野家のあったところですよ」と明るくおっしゃられたのが強い記憶の一つ。複雑な心情を感じつつも、それでも、前を向くだけ。遠くには福島第一原発が見えた。

浪江の駅前はもちろん瓦礫は撤去されているが、倒壊の危険が高い建物がまだ沢山残されていて、5 年半前から時間が止まったままの様な風景。人影はほとんど無く、時折見かけるのは除染関係者らしきの人と車のみ。宮口副町長によると、駅前には町の一番中心部でランドマーク的な店も多いが、除染が始まって以降、次々に壊されて急速に景色が変わっているら



しい。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

仮設焼却施設を外から見たときに、「ゲンヨウカ」と説明を聞いてもすぐにピンと来なかった。放射能で汚染された廃棄物を焼却などして体積を減らす「減容化」。復興の上で大きな問題の一つが、大量の廃棄物を今後どう最終的に処分していくのか、だと思ふ。

それと関連して、現在仮置き場になっている場所は浪江町では優良農地が多く、それが農業再開を難しくしているとのこと。

口に入る農産物は難しくても、震災後は花卉栽培を重点政策の一つとしてIT技術導入するなどなど、意外にチャンスに繋がる予感。

かつて浪江町の川沿いに多く自生していたコスモス。震災後はほとんど無くなってしまったという。復活の為に、ご自分の畑に種をまいた二人の上野さん。丁度見頃で、とても癒されました。コスモスの花は可憐なのに、近くで見ると意外に背丈が高く野性的。そんなギャップがクスッと笑える。

今回初めて入った帰還困難区域。第一印象は5年半前まで人が住んでいたのが不思議な感じがした。道路沿いは除草されたばかりではあったけれど、比較的手入れのされている避難指示解除準備区域とは雰囲気が大きく違う。雑草が背丈よりも茂っていて、隙間から微かに家屋敷の一部がみえる。が、傾いていたり戸板は外れていたり屋根からも草が生えている等。

第一原発から離れていても震災直後の風向きと雨の影響で放射線量が高く、山々の木々で除染も難しいと聞く。トイレ休憩で立ち寄ったスクリーニング場の草場のそばの線量も高かった。神奈川に帰って友人に話しをするとき、「ダッシュ村」で有名な津島地区というと、関心をもって聞いてくれる人もいた。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

震災から5年半。仮設ではなく定住へ向けての一步。山の上なので、車無しでの生活は難しいであろうが、それでも設備上は仮設のときより快適に暮らせると思う。

少しずつ復興はしてきているものの、バラバラに点在している自治体とコミュニティはお互いの支えあいを失いつつあるのか。特に育児放棄に関する話も深刻である。震災直後はマスコミ報道から聞いたことがあったが、五年半経った今でもまだ多いと宮口副町長の話。

保証をもらい続けてその日暮らしの自立しない人、一方帰還意欲の強い人は詐欺にひっかかる等、ソフト面での生活再建までも行政の支援は必要なのか。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について(事実・感じたこと)

伝統と歴史ある大堀相馬焼。馬の絵は難しく書けなかったが、記念になった。避難中なので、土も愛知県からの取り寄せとのこと。技術伝承のためにもこのまま続けていってほし



いと、願うばかりです。

(5) 参加して(個人全体所感、神奈川に向けて)

請戸小学校の震災当日の避難のときの話は感動しました。先々代の校長の災害教育方針で普段からマラソンをさせていた話はいつか神奈川でも起こるであろう関東大震災にも繋がると思います。今できることの一つとして参考にして考えたい。

東日本大震災から5年半が過ぎました。毎日の生活のなかでは原発事故に対して、震災に対して話題にならない日も多いです。とは言え、少しずつ私にできることやっていきたいと思っています。

(6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

お忙しい中大変お世話になりました。復興にはまだまだ時間がかかりそうですが、今後お手伝いできることあれば協力させて頂きたいです。ありがとうございました。

【参加者 No.17】

(1) 浪江町内視察して(事実・感じたこと)

・浪江町役場本庁舎および周辺

本庁舎の建物は地震の影響が少なくそのまま使えるのは、町の職員の士気や避難解除後の街づくりには追い風であると思う。本庁舎を中心としたエリアに街づくりの基礎となる計画(診療所、商店街等)があるとのこと、期待したい

・請戸地区

浪江町の津波被害の大きさを初めて知ることができた。原発事故がなければ、津波による犠牲者を救うことができたのではないかと思うと胸が痛い。同行してくれた浪江町中野係長宅の跡地をご本人は明るく紹介していたが、震災前の思い出がつまったお宅であったことを思うといたたまれない気持ちになった。請戸小学校の生徒が日頃の訓練の成果で大平山公園に避難し無事であったことで救われた気持ちになった。請戸港の再開を待ちたい。常磐物の新鮮な魚を賞味したい。

・浪江駅および周辺

駅は、もちろんもちろん閑散としていたが、鉄道の再開、町周辺の賑わいが戻るのを心待ちにした。この場所の賑わい程度が浪江町はのみならず、周辺町村の復興のバロメーターになるのだと思う。

・浪江町役場二本松庁舎

浪江町を離れ住んだこともない土地のプレハブ庁舎で復興に取り組む町の職員の方々には頭が下がる思いがした。



・コスモス畑

予定にない視察場所であったが、感動した。浪江町の復興のシンボルとなればよいと思う。

(2) なみえ復興レポートをお聞きして(事実・感じたこと)

避難先が福島県内 30 か所、県外全国 600 市区町村に渡り、震災から約 5 年半経過し、町民の生活基盤が避難先できつつある中での復興計画作りは苦労が多いのではと感じた。

また、住居、病院、介護施設、学校などの各計画についてターゲットの絞り込みが困難極まると感じた。現実路線でコンパクトに公共施設などをまとめるのは同感できた。

(3) 復興公営住宅(石倉団地、根柄山団地)建設場所を視察して(事実・感じたこと)

・石倉団地

大規模集合住宅であった。浪江町当時の地区単位に入居できるとよいと思った。まずは、環境のよくない仮設住宅から解放され、浪江町への帰還の足掛かりとして欲しい。

・根柄山団地

戸建ての団地であった。家族形態に応じて入居ができるよう色々な工夫があった。長屋風、間取り、2 階建てなど。団地中央部には集会所施設が用意されていた。石倉団地同様、環境のよくない仮設住宅から解放され、浪江町への帰還の足掛かりとして欲しい。

(4) 陶芸の杜 おおぼり 二本松工房での体験について(事実・感じたこと)

浪江町の伝統工芸の存続に危惧を感じた。陶芸に使う土の問題があり仮に帰還しても浪江町での活動再開は困難であることを知った。

(5) 参加して(個人全体所感、神奈川に向けて)

東日本大震災は発災から約 6 年経過しようとしており、風化は否めない。復旧、復興は地域差が出てきているが、福島県沿岸部は原発事故の要因が重なり、とりわけ遅れている。とにかく現地を訪問し、自身の目で見て感じて欲しい。その上で各人が様々な場面でやりたいこと、できることをして欲しい。

復興は、浪江町単独のものだけでなく、周辺町村と連携、巻き込む形で取り組んでいく必要があることを感じた。

(6) 浪江町様へ(町長、町役場、町民の皆様へ)

・町長、副町長、町役場

ご苦労は多いと思いますが、町民、またご自身のため、希望を捨てず未来だけを見て仕事に邁進して頂きたいと思います。微力ながら応援させていただきます。

・町民の皆さま

これまでの長期にわたる避難生活お察しします。

避難指示解除後は、避難先での生活基盤ができている方も多いと思いますので、まずは、帰還できる人から帰還して欲しい。

(補足)

1. 視察研修便参加者アンケート集計 < () 内は回収・回答数です。 >

(1) 参加のきっかけ

- A (11) 福島でお手伝いしたかった
- B (00) 街中掃除をしたかった
- C (10) 日程や工程がよかった
- D (00) 知人・友人に誘われたから
- E (04) その他
 - ・現地の状況を詳しく知りたかった。3件
 - ・普通では立ち入れない場所に入れるから。

(2) 出発前の kfop からの案内

- A (18) ちょうどよかった
- B (00) 少なすぎた
- C (00) 多すぎた

(3) 今回の活動(視察研修)は如何でしたか

- A (11) 非常に満足
- B (06) 満足
 - ・浪江町の困難な実情はよくわかったが、問題点が多すぎて当事者の逡巡や当惑が多すぎて、まず当事者間での合意が成立しなければ、第3者のボランティアとして何をどうしたらよいか戸惑う面があった。
 - ・町内の視察時間がいつもより短かった。
 - ・複数の町の職員の様々な意見を聞いてみたかった。
- C (00) 不満
- D (00) 非常に不満

(4) 活動(視察研修、全般)時間について

- A (14) 今回と同じが良い
- B (01) 定時(16時)まで活動
- C (00) その他

(5) これからも参加したいですか

- A (18) 参加したい
 - ・ニーズがある限り参加してお手伝いしたい。
 - ・南相馬以外でもニーズがあれば活動したいが、kfopの能力・人員との兼ね合い。また、もっと地元から必要とされることを発信して欲しい。
- B (00) 参加したくない

(6) 活動(視察研修、全般)についてのご感想・ご意見・伝えたいこと

- ・多くのお話を聞け、目で見ることもでき、勉強になった。企画有り難うございました。
- ・町の様子を拝見し、海側にあった民家がほとんど全部なくなっている状況に驚いた。中野さんの当時のお話を聞いて胸が詰まる思いだった。
- ・町役場の方々に同道いただくような機会を得て、沢山の話を伺い、大変感謝します。

- ・宮口副町長は、浪江町と富岡町が戻らなければ双葉町・大熊町・楡葉町の復興はあり得ない。何よりも浪江町・富岡町が戻ることが前提であると言っていた。では、どうしてそれを実現するかについてははっきりしていない。
- ・一つの町だけでなく、以前の生活圏にかかわるつながりが必要であると強く感じた。
- ・町職員の皆様にいろいろ聞けてよかった。次回以降も、他の町の方とお話したい。
- ・行程の都合でやむを得なかったが、バス車中での説明は聞き取りづらく、質問もしづらかった。
- ・浪江町の方から苦労されている話が聞けてよかった。住民のまとまりがなくなりつつある点が不安も感じた。福島の復興はまだまだこれからであることを伝えたい。
- ・中野さんから 3.11 の避難について聞く。原発のことが分からずにただ避難して、岩手・宮城と違うことを初めて知り、大変だったことをいまさらに知った。目的②の『・・・伝える』、③できることを『考える』、どのようにやっているのか知りたい。知り合いたい。
- ・浪江町の行政の方から浪江の現状を聞くことができ、また現地を直接見ることもでき、とても有意義な視察だった。
- ・福島の現状を広く伝えられればよいが、現在は手段がない。インターネットにしても一部の人にしか伝わらない。
- ・季節・天候に恵まれ、現地の方々のお話を直に聞いて勉強になりました。今回は研修ということで、買い物もゆっくりできて良かった。
- ・とても勉強になった。
- ・浪江町の現状と様々な課題を知ることができ、身近な人に話していきたいと思いました。
- ・浪江のこれからの楽しみです。準備有り難うございます。飯舘お願いします。

(7) kfop の今後の活動（全般）に期待すること

- ・平成 29 年 4 月以降、浪江町での活動もできることを期待。
- ・今後も継続して現地でこの活動をしていくこと。
- ・今後どのようなお手伝いができるか、意見が出るとよいと思う。
- ・一人では難しいので、引き続きお願いします。
- ・飯舘村、葛尾村、川内村など kfop で未訪問の避難指示解除準備区域の話を聞きたい。
- ・今後も視察便を企画して欲しい。
- ・月に 1 便福島、これから参加したいと考えていますが、最近時間が無くなり、心苦しく思っている。中野さんの話から、浪江町で活動してみたい。
- ・飯舘村などの視察を企画していただければと思います。
- ・研修とボランティア活動でアンケートの形式・質問内容を変えて欲しい。
- ・次回ツアーのアイデアとしては、浪江焼そばなど福島の B 級グルメや福島の銘酒を食べたり飲んだりするツアーとかやれば、参加したい。

⇒ボランティア活動として現地を知る意味で「視察研修」とさせていただいています。
ツアーは私達で行う活動ではありませんので会の活動としては今後ありません。

- ・身体を使ったボランティアも大切であるが、「知る」ということの重要性をとて感じました。行政の方々からの説明をもっと聞いてみたいです。
- ・これからも太く長くお願いします。



・お話を伺い、浪江町への支援があるように思いました。

(8) 参加者状況 (年代以降は参加者アンケートの有効数です)

- ①性別：女性(07) 男性(11)
- ②年代：20代(00) 30代(01) 40代(03) 50代(09) 60代(03) 70代(02)
- ③職業：会社員(09) 自営(01) パート(01) 家事(01) フリー(02) その他(01)
- ④経験：初めて(00) 2-3回(00) 4-5回(01) 6-9回(02) 10回以上(08)

2. 会計

【 全体予算 (実績) 】

収入				支出			
項目	金額	個数	合計	項目	金額	個数	合計
参加費	18,500	20	370,000	バス代金	176,040	1	176,040
絵付け費用	37,312	(20)	37,262	保険料	200	20	4,000
宿泊費	10,000	(2)	10,000	振込手数料	216	1	216
視察予算	40,040	1	40,040	高速代	16,130	1	16,130
				宿泊費	209,622	(23)	209,622
				絵付け体験	37,312	(20)	37,262
				雑費	3,456	1	3,456
				懇親会費	4,420	1	4,420
				礼状送付代	620	1	620
				印刷費(報告)	1,580	1	1,580
				印刷費(写真)	3,956	1	3,956
合計			457,302	合計			457,302

※宿泊費、絵付け体験費用は全額参加者の自己負担です。

※バス代金、高速代金等の一部に視察予算を充当しました。

※最終報告書の印刷代、郵送代等は未計上(完了後に計上)です。

以上



保護用紙